

平成29年総務大臣年頭所感



総務大臣

たかいち さなえ
高市 早苗

新春のお慶びを申し上げます。

総務大臣に就任以来2年4月の間、国民の皆様の生活に密接に関わる幅広い総務行政に、精一杯取り組んでまいりました。

政府が進めてきたアベノミクスの諸施策により、雇用の拡大や賃金の上昇による経済の好循環が生まれており、本年は、この流れをより確かなものとし、日本の未来を拓く取組を加速する大切な年となります。

国民の皆様には「暮らしが豊かになってきた」、「地域社会に活気が出てきた」と変化を実感していただける年になるよう、総務省の政策資源を総動員してまいります。

〈IoT／ビッグデータ／AI新時代〉

来る「IoT／ビッグデータ／AI時代」に向け、一体的・総合的なIoT推進戦略を策定するとともに、IoT人材育成にも取り組みます。

AI（人工知能）についても、社会実装と研究開発を両輪で進めます。

社会実装については、情報通信研究機構（NICT）が持つAI関連の研究成果やデータを他の機関にも活用いただけるようにするとともに、基盤技術の実装を進め、多様な分野でAIを活用した革新的な取組を促進します。

研究開発については、最先端の脳科学の知見も取り入れ、少量のデータでもビッグデータ解析と遜色のない学習を可能とする次世代AI技術の研究開発を加速していきます。

昨年4月に高松市で開催したG7情報通信大臣会合では、私から「AI開発原則」を提唱し、参加各国から国際的な議論を進めることについて賛同を得ました。本年3月には、東京で国際シンポジウムを開催し、開発原則の内容を具体化した「AI開発ガイドライン」の策定に向けた議論を行う

予定です。G7やOECDなどとも連携し、国際的な議論の具体化・加速化の中心的な役割を果たしていきます。

IoT時代の新たな脅威からネットワークを守るための対策も講じていきます。サイバー攻撃の複雑化や巧妙化に伴う被害の増加に対し、サイバーセキュリティの確保に全力で取り組みます。情報通信研究機構（NICT）にナショナルサイバートレーニングセンターを組織し、サイバー攻撃に対する防御演習を強化し、若手のセキュリティ人材の育成にも着手します。

〈プログラミング教育〉

IoT時代に重要となる論理的思考力や課題解決力、創造力を育むため、若年層を対象としたプログラミング教育のモデル開発と横展開を進めていきます。

2020年の小学校での必修化に対応するためには、教材や指導者の確保が重要です。総務省では、クラウド上の教材や地域の人材を活用した実施モデル構築に向けた実証事業を全国24校で開始しました。

今年は、教育モデルを全国に広めていくとともに、例えば障害をお持ちのお子さんにもしっかり学んでもらえるような多様なモデルを開発します。

〈スマートフォンの更なる普及に向けて〉

スマートフォンは、今や、国民の「生活インフラ」であり、通信料金負担の軽減は重要な課題です。

これまでの取組によって、大手携帯電話事業者では、ライトユーザーや長期ユーザー、更にはヘビーユーザー向けの新たな料金プランが導入されました。

本年は、1月上旬までにSIMロック解除の期間短縮や端末購入補助の適正化のためのガイドライン改正を、春までにMVNOが大手携帯電話事業者を支払うモバイル接続料の適正化のための省令改正を行います。

これにより、競争を更に加速させ、通信サービスと端末をより自由に選択できる環境を整備し、利用者の皆様にとって一層分かりやすく納得感のある料金・サービスを実現していきます。

結びに、皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

平成29年元旦